

学校法人 日本芸術学園

日本芸術専門学校

2022 年度 学校関係者評価 報告書

目次

I. 教育理念・目的・人材育成像	1・2
II. 学校運営	3～9
III. 教育活動	10～21
IV. 学修成果	21～23
V. 生徒・学生支援	23～28
VI. 教育環境	29～34
VII. 生徒募集	35・36
VIII. 財務	36
IX. 法令等の遵守	37
X. 社会貢献・地域貢献	37
XI. 国際交流	38

I. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-1 学校の教育理念・目標の設定	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・毎年フレキシブルに、必要な授業形態や内容に対応していると思う。一方で「Complete」がどこなのが見えにくいと思う。 ・良いと思う。 ・高い理念を掲げて、教育に臨むことは必要だと思う。 ・適切に行われている様に感じる。 ・時代の変化を的確に捉え、適切に変化させていると感じる。一方で、教育理念の中で「変革の教育」だけ変革・挑戦・達成の単語のみが提示されている状態なので、この3つがどう変革の教育に結びついているかのストーリーが読み取りにくいと感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-2 時代、社会、学習者のニーズへの適合	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・毎年ニーズに応えようとしていると感じる。学生から希望があるように、セリフを喋る（ストレート・プレイ）の学びがもう少しできれば、尚良いと思う。 ・的確なコンセプトだと思う。専門性も重視すると更にバランスが良いのでは、と考える。 ・良いと思う。 ・時代のニーズとは何なのか？アンテナを張りつつ必要な技術を修得していくことが必要と考える。 ・新しく学科が新設される等、常に時代のニーズに答えるための動きがなされている他、最前線で活躍されている講師を招く事で、現場で実際に求められていることを学生に伝えることができていると思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-3 定期的な点検、見直しの実施（時期・方法・組織）	4（5名） 3（2名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 掲げた理念は、あまり頻繁に見直し作業がない方が良いのではないか、と思う。（理念の徹底、周知という意味でも）</u> <u>・ 職員会議等で必要な際に適宜行っているとの事で、ほぼ適切に行われていると思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
1-4 教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	4（3名） 3（2名） 2（2名） 1（0名）	平均 3.1 点
委員コメント <u>・ 学生達がどれくらい意識しているのか、個々によって差が大きいと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ もう一段、浸透が深まっていいのではないか。</u> <u>・ 地道に継続していく以外に浸透度を上げる術は無いかと思しますので、続けていただきたい。</u> <u>・ Conquest から Complete に変更した経緯やそれに伴う意味合いの変化などは、是非学生、教職員全体に浸透させていってほしい。</u>		

Ⅱ. 学校運営

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-1 役員の選定の基準の適正さ	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 適正さの継続をお願いします。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-2 理事会、評議員会の開催状況	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 適切だと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いする</u> <u>・ 計画に従い適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-3 寄附行為の定期的な点検と見直し	4 (1名) 3 (6名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント ・寄附行為がどの程度行われているのか、知らないのでこの評価とした。 ・自己点検・評価シート上の文面でしか内容を把握していないが、的確に感じる。 ・適切だと思う。 ・適正な見直しを続けてほしい。 ・定期的な見直しの具体性を知りたい。 ・適切に行われている様に感じる。 ・定期的とは、年間どのくらい見直しの機会を持っているのか、分かりにくい。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-4 事務組織の明確化	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・良いと思う。 ・引き続き改善、更新をお願いしたい。 ・校務分掌についても随時更新している、とあるが、どのくらいの頻度で更新されているか知りたい。 ・明確化は進行しているようだが、あまり周知されていない印象がある。 ・外部からするとどのような組織体系になっているのか分かりにくい為、情報公開の一つとして学校組織図は公開してもよいのではないかと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-5 学校運営会議、教育会議などの定期開催	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・年に1度でも、教職員や他の講師との会議や連絡会などがあると、尚良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・合理的な会議の設定、運営を続けてほしい。</u> <u>・継続的に連絡会、経営会議が設けられており、適切に行われているように感じる。</u> <u>・分科会や実務者会議とは、具体的にはこれまで行われていた職員会議、連絡会、経営会議に対して趣旨、出席者はどのような違いがあるのか、またこれらを行うことでどのような成果が得られたのかが資料から読み取れなかった。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-6 各会議の内容と適正さ	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切におこなわれている様に感じる。</u>		

2-7 諸規程の制定 は省略させていただきます。

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-8 諸規程の整備及び職業安定所への届出	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 適切だと思う。</u> <u>・ 引き続きお願いする。</u> <u>・ 顧問社労士に相談の上、諸規定の整備をされており適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-9 諸規程の定期的な見直し	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 良いと思う。</u> <u>・ 業務の効率を高めるためにも、定期的な見直しをお願いする。</u> <u>・ 多岐にわたるという表現が、具体性に欠けると思う。</u> <u>・ 適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-10 学則等の定期的な見直し	4(5名) 3(1名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・ 他の学科、プラスミュージカル学科のセリフ、演技の授業が充実するよう期待する。</u> <u>・ 必要だと思う。</u> <u>・ 具体的な改善、改革は必要だと考える。</u> <u>・ 柔軟に学科やコースを新設、変更し要望に対応している点は高く評価したい。これも定期的な見直しがあつての事と思うので、今後も続けて行ってもらいたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-11 学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	4 (2 名) 3 (5 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.2 点
委員コメント ・学校周辺が少し人通りが少ない事もあり、夜は学内も物寂しくなるので、引き続き防犯、安全対策を行ってほしい。 ・防犯対策の内容が分からないが、必要だと思う。 ・更なる防犯対策をお願いする。 ・防犯対策の 1 例があれば良いと思う。 ・適切に行われている様に思う。 ・学生や備品は学校の財産なので、しっかり管理出来る仕組みを作って頂きたいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-12 各教職員の防犯に対する認識の徹底	4 (3 名) 3 (4 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.4 点
委員コメント ・2-11 と同意見。 ・問題があった他校や他施設などの事例をリサーチして、活かすことも良いのではと考える。 ・必要だと思う。 ・労力の必要な作業だが、引き続きお願いする。 ・見回りの際にチェック項目で確認する等、適切に行われている様に感じる。各講師の緊急連絡先も確認する予定との事なので、十分に取り組みがなされている様に思う。 ・万が一校舎内で不審者や不審物を、講師や学生が第一発見者になった場合の通報先や初動対応など、時代に合わせた防犯教育が必要になると思う。率先して教職員が防犯に対する認識を合わせていくことが重要と思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-13 学校安全保健計画、消防計画の作成	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント ・救命救急講習はとても良い取り組みだと思う。 ・コロナに対する状況も、位置づけも変わる事となるので、感染防止マニュアルも見直しを検討して良いと思う。 ・必要だと思う。 ・引き続きお願いする。 ・全職員対象に、救命救急講習を行う等、適切に行われている様に思う。 ・救命救急講習や防災訓練などは、学生や講師も参加出来る環境があると尚よいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-14 個人情報保護法の遵守	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント ・今のところ、何か問題が起きた等、耳にしていないので、引き続き現状の取り組みを続けてほしい。 ・必要だと思う。 ・更なる遵守の徹底をお願いする。 ・最終的には各自のモラルに依存する部分もあるので、100%は難しいかと思うが、個人情報保護を遵守する旨の同意書にサインをもらう等、出来る限りの対策を行っている様に感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-15 セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成 ※第1回 当日討議項目	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・叱るとハラスメントの境界線が難しい。思い込みなどで加熱してしまう危険もあると思う。ルールブックなどを学生に配布するのも良いのではないかな。 ・学校側の基準を作ったり、対応窓口を作ったりするなど、学校がフォローしていくことが重要。より具体的にしていけば良いと思う。 ・基準を作って共有する、ハラスメントについて学生生徒向けの勉強会があっても良いと思う。 ・ハラスメントの基準は時代に応じて変わっていくと思う。自分では気づかない部分があると思うので、匿名でなにかあったので注意しましょうというような、ハラスメントの規制が必要だと思う。 ・ハラスメント防止の講習会等、必要だと感じる。 ・できる限りのことはやっていると思う。これをやったらハラスメントというような文言があると良い。 ・学校としてしっかり対応していると思う。特に教育現場で、どこまでいったらハラスメント、という境界線は本当に難しいと思う。相手とのコミュニケーションでカバーしていくしかないこともある。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-16 相談窓口の設置と適切な対応	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント ・第三者窓口がある事は適切だと思う。 ・相談窓口は、それぞれの事例に伴い設置しているのか分からないが、ハラスメントやメンタル面、その他の問題を一元管理した方が良いか、細分化した方が良いかも検討すると良いと思う。 ・良いと思う。 ・公正、公平な第三者相談窓口を維持してほしい。 ・適切に行われている様に感じる。		

Ⅲ. 教育活動

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-1 教育理念、目標の反映	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・「品格の教育」がもっと浸透していくと良いと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・実践的なカリキュラムで教育理念を概ね実現出来ている様に感じる。</u> <u>・教育理念のカリキュラムへの反映は見えにくい部分もある為、この評価とした。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-2 カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など)	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・演技のクラスが少ないという声をよく聞く。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・専門科目は充実していると思う。専門家になる為の、初歩の常識、教養の座学も必要。</u> <u>・専門性の高さは素晴らしい。資格取得授業も素晴らしい取り組みだと思う。</u> <u>・必修科目が多すぎて取りたい授業が取れない等の学生アンケートの声もあるので、講師の都合もあるかと思うが考慮した編成が出来るとよいと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価 ※第2回 当日討議項目①	4(2名) 3(5名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・学生たちは、「少人数」をどう捉えているのか、気になる。そのため「少人数」という表現ではなく「定員を設け」という表現の方が良いのではないか。卒業生が、これをやっておけばよかったというような話を、在校生にしてもらう場などがあれば、生きた声が在校生に染み入ると思う。 ・学生だけでなく、卒業生の評価なども知りたい。授業が就職先にどのくらい役に立ったのか、ということも今後知りたい。 ・コロナも明けるので、より、受けたい授業を受けられるようになれば良いと思う。 ・少人数制は良いことだと思う。科目ごとに適正な人数を学校側で抑えておくことも必要かと思う。 ・自己点検評価の「履修希望者が多い場合は抽選を行った年度の途中で授業に来なくなり、定員に余裕ができた場合は聴講可能授業として開放する科目を設けた」という表現が、途中で授業に来なくなったから、良かったという見え方になりかねない。 ・昨年度の問題点等を解決しているように見えるので、その点は良いと思う。周りの評価で、なにか目に見えるものがあればより良いと思う。 ・学生からの評価も大事だが、学生の就職先にどのくらい役に立ったか、講師の先生、いろいろな角度からの評価が必要だと思う。今後カリキュラムをどう振り切っていくか、究極的には少人数で質をとるか、もしくは多少人数を多くしても量をとるか、どちらかの選択を迫られることになっていくと思うが、今後に期待する。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント ・良いと思う。 ・必要な作業であると思う。 ・学生からの回答をもとに点検されている点は素晴らしいと思う。実際に教鞭をとる講師にもヒアリングして頂けると更に良いものとなるかと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-5 実習システムの現況と今後の見直し ※重点項目①	4 (0名) 3 (6名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 2.8 点
委員コメント ・今後どのようなになるか分からない。舞台監督をやっている役者や、仕込み・バラシを行っている役者に話をしてもらおうというのは企画としてできそう。ステージツアーを役者やスタッフが案内することも行っているので、そのようなことも企業実習としてできると思う。 ・まず準備をしてみにいく、それをあとから活かすのが重要なので、急に現場に行っただけだと意味がないと思う。現場を見に行く機会を増やすだけでなく、そのための準備をする、クリエイションできる場所があると良いと思う。企業実習の前に、小さい作品でも作っていくということの方が良いと考える。 ・学生からしてみれば、この企業実習という経験は大切なことだと思う。 ・学生が現場に立ち合って、見る、ということはなかなか難しいと思う。ただ一方で学生は現場を知った方がいいと思うので、たとえば劇団員のリアルな話を聞く場を作ることがいいのではと考える。 ・前回、エンタメの仕事でインターンというものは、やはり難しい、と感じていたが、企業実習の話が進んでいるようなので、良いと思う。 ・表現者でインターンはやはり難しい。現場の空気を感じるだけでも、普通ではできないことなので、実習システムを学校の強みにできると思う。進路の選択肢が増えるとより良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-6 シラバスの作成・学生への提示状況	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント ・良いと思う。 ・良いと思う。 ・授業選択の為に重要であると考え。 ・シラバス通りに行われているか気になる。 ・スマートフォンで閲覧できるようになっているのは、素晴らしい対応だと思う。通年計画を理解した上で授業に取り組む事ができるので、学生の実力の底上げにつながると思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-7 教育方法の工夫・研究の取り組み ※第1回 当日討議項目（第2回に繰り越し）	4（1名） 3（5名） 2（1名） 1（0名）	平均 3 点
委員コメント ・たとえば自身の授業では、クラス内発表を動画でとって、お互い見合ったり、テストの一環として代用していたが、アウトプットのを設けている授業を見たい。東京音大の交換授業というのは、もっと具体的に知りたい。他学科の情報をもっと知りたいと思う。 ・東京音大を通じて、より専門的に経験できることを期待する。アウトプットをより能動的にできれば良いと思う。 ・声楽を取り入れるのはとても良いと思う。 ・講師と話しをする機会が少ないのが、少し残念な気がする。講師同士の意見交換ができれば、もっと良いと思う。 ・評価項目の内容に具体性がないと思う。形式的になっていないか気になる。 ・今までとちがうアクションを起こしたと思う、一方で具体的な内容は分からない。東京音大以外にも連携しようとしている学校があるのか気になる。 ・学校でできない部分ができるのか、もしくはできることをさらにプラスする役割があるのか、いまいち内容が分からない。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-8 生徒・学生の授業評価とその反映	4（6名） 3（1名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.8 点
委員コメント ・良いと思う。 ・良いと思う。 ・評価方法として適切であると思う。 ・主観に依らない客観的な評価方法で良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-9 卒業生・企業等の評価と活用 ※第2回 当日討議項目②	4(4名) 3(2名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・以前から良いことだと思っている。ただ、プレシヤスオーディションに頼りきってしまう学生がいるように思う。行きたいところは調べる、最終的には自分で決めるという指導を、より積極的にした方が良いのではないか。企業からもらった評価のフィードバックの場があった方が良いと思う。 ・どんな評価項目（学生評価）になっているのか、分からない。次に活きるような評価項目にしていくのが良いと思う。 ・評価をネガティブに捉える学生がいると思うので、評価のフォローは本当に必要だと思う。 ・学生でいられる間に、企業との接点（交わる機会）があるのは、とても良いと思う。今後所属の学生が増えたと、より良いと思う。 ・とても良い取り組みだと思う。 ・学生にとっては、次年度に活かして良いと思う。システムとして成熟している印象。 一方で、学生に足りないスキルがないようにしようと考え、バランス型の人材を作ろうとしているように感じる、企業の中には、バランス型ではなく、特化型で人材がほしいところもあると思うので、特化型の学生でもチャンスがつかめるようになってほしいと思う。 ・かなり前から続けていて、企業も途絶えることなく来ているので、良い取り組みだと思う。これから外にでていく先の評価を受けられることは、在校生にとってとても良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-10 成績不良者への対応 ※第2回 当日討議項目③	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・補習にでている学生の質が上がっているように思う。取り組みをしっかりとしていると思う。 ・成績不良者にはいろいろな事情があると思う。今の世の中の流れや風潮などで、いろいろと大変だと思うが、より充実していったほしい。 ・今の対応が良いと思う。 ・出席率に対して、早めの段階で学生との面談をしていく必要があると思う。 ・学科担当制なので、病気のことだけでなく学費のことも考えなければいけない、大変な時代。成績不良者は当然でてくるので、相当サポートをしていると思う。 ・学科担当制なので、学生1人1人とピンポイントで対応できていて良いと思う。昨年度より改善されている点が見えない。 ・出席率の低い学生＝成績不良者と一概にいいか分からないが、出席率の低い学生に対して、面談やサポートなどをしていく必要があると思う。出席率の低い学生に対して、事前にもう1アクション学校からあっても良いと思う。道筋を一緒に考える体制は良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-11 学則・細則・内規に準拠した評価	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント ・良いと思う。 ・良いと思う。 ・現行で良いと思う。 ・適切に行われている様に感じる。		

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
3-12 各成績判定者の審査基準、意思の統一	4 (7 名) 3 (0 名) 2 (0 名) 1 (0 名) 平均 4 点
委員コメント <u>・とても良いと思う。</u> <u>・必要だと思う。</u> <u>・現行の体制を引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
3-13 評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	4 (7 名) 3 (0 名) 2 (0 名) 1 (0 名) 平均 4 点
委員コメント <u>・必要だと思う。</u> <u>・現行の体制を引き続きお願いする。</u> <u>・教職員の評価会議を行う等、適切に行われている様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
3-14 年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	4 (2 名) 3 (5 名) 2 (0 名) 1 (0 名) 平均 3.2 点
委員コメント <u>・資格を早い時期にとると、業界で活動しながら生活の支えにできる可能性があるのでは、そういう機会が用意されているのは良いと思う。1 割程度しか利用者がいないのは残念に思う。</u> <u>・資格を取得できる制度は良いと思う。資格の種類については、もう少し増やしても良いのではと考える。</u> <u>・資格取得学生が一割というのは、妥当であると思う。</u> <u>・資格取得が目的ではないので、現状で問題ない様に感じる。</u>	

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-15 不合格者への対応	4 (4 名) 3 (3 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・資格取得を目標にして不合格となった学生が出た場合には、フォロー&サポートできる体制があっても良い気がする。</u> <u>・資格取得が目的ではないとはいえ、不合格は足りない部分があるということの表れなので、学び自体が中途半端にならないようフォローアップは是非して頂きたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-16 専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	4 (5 名) 3 (1 名) 2 (1 名) 1 (0 名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・男女バランスが5：5なのは、良いと思う。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・学生対応の多い専任教員は、もっと多い方が良いのではと思う。</u> <u>・問題無いと思う。</u> <u>・専任教員がもう少し在籍してもいいように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-17 教員の平均年齢とバランス	4 (4 名) 3 (3 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・適切だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-18 1人当たりの担当授業時間数の点検	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・現行で良いと思う。</u> <u>・適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-19 担当業務の内容と全体のバランス	4(1名) 3(6名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・課題に関して共感する。</u> <u>・適切な役割分担をお願いする。学生への対応時間を増やす為にも、専任教員は可能な限り多い方が良いと考える。</u> <u>・専任教員が増えても良い気がする。</u> <u>・現状の専任教員の人数と業務内容を踏まえると、人員不足のように感じる。業務が滞らない方法を考えていく必要もあるかと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-20 定期的な人事考査の実施	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-21 教員の教育能力開発への取組状況	4 (0 名) 3 (4 名) 2 (3 名) 1 (0 名)	平均 2.5 点
委員コメント ・ぜひ研修をして、改善していけるところは、して行ってほしい。 ・複数の教員のスキルアップが、運営には望ましいと感じる。 ・必要だと思う。 ・多忙だと思うが、取り組みをお願いしたい。 ・改善を進めてほしい。 ・良い取り組みではあるが、昨年に続き本年も実施できていないとの事なので、また実施できるように改善して頂きたい。 ・とても大切なことと思う。是非時間を捻出して頂きたい。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-22 教員 1 人あたりの学生数の割合 ※第 2 回 当日討議項目④	4 (1 名) 3 (4 名) 2 (2 名) 1 (0 名)	平均 2.8 点
委員コメント ・職員にどの程度負担か、やりがいがあるのか、図りかねる。 ・経営的なことも考える必要があり、教員が多ければ多い程良いというだけではないので、妥当だと思うが、今後余裕がでてきたら改善したり、ケアをうまくしてほしい。 ・平均的なパーセンテージが分からないので、この評価。 ・40%の学生をみているのは、多いように思う。個別的な事情、細かいケアをしていくためにも、この率はもっと下がっていった方が良いと思う。 ・労使で問題が起きていないのであれば、それで良いと思う。 ・手厚い対応だが、今後、たとえばハラスメント対応なども含めると、人数が足りないように思う。 ・専門学校となると、将来に直結していくので、教員は多い方が良い。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・良いと思う。</u> <u>・適切なバランスの様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-24 担当業務の内容と全体のバランス	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・1人の負担が多そうなのが、心配である。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・人数的な制約がある為とは思いますが、業務が多岐に渡っているので、場合によっては業務負荷が高くなっているのではないかと思います。</u> <u>・一人当たりどのくらいを担当しているか分からないが、無理のないバランスであればよいと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-25 定期的な人事考査の実施	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-26 各職員の意思疎通（報告・連絡・相談）	4（4名） 3（3名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・各職員の意思疎通は、かけ声だけで終わらないように、具体例があってほしい。</u> <u>・高等課程の教員も含め学園全体で定期的に連絡会を行っているとのことなので、適切に行われていると思う。</u>		

IV. 学修成果

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-1 就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か	4（2名） 3（5名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.2 点
委員コメント <u>・できる事は取り組んでいるように思う。ただもう少し学生達が自分で、行きたいところを適切な時期までに自分で見つけられるよう、プロの活動に目を向けてあげられると、尚良いと思う。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・よく取り組んでいると思う。</u> <u>・昨年同様、公開オーディションをオンライン併用で実施する等、コロナ禍の状況を配慮したよい取り組みだと思う。カウンセリングを受けられる体制も整い、ほぼ適切に行われている様に感じる。</u> <u>・企業求人の斡旋等、専門学校の特徴を活かした就職支援活動ができると思うので、是非学生が満足する進路を提供してほしい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-2 動向分析	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.2 点
委員コメント ・ <u>プロダクション所属＝安心ではなく、スタートである事を卒業生に強く伝えたい。学校という枠組みから出て、個となった時のバイタリティーを育てられる様、講師と協力して更に取り組むことが望まれる。</u> ・ <u>適切だと思う。</u> ・ <u>中退率を更に下げられれば良いと思う。</u> ・ <u>現代の世相や、コロナ禍が関係しているのか、と思った。</u> ・ <u>高い就職率で、取り組みの成果が出ている様に感じる。中退率も前年度より下がっており、適切に行われている様に感じる。</u> ・ <u>数字だけではなく中身が大事なので一概には言えないが、中退率をもう少し細分化して分析しても良いかと思う。ポジティブな中退（進路変更など）は、ある意味早い段階で決断することで次の道が開かれていくと思うので、本当は修学したいがやむを得ず中退に至った場合と、目指す先の変更により中退をする場合の数値は分けて考える必要があるかと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-3 中途退学への対応	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・ <u>受け持っている学生が、退学の可能性がある場合は、早めに知らせてもらえると、なにかできることがあるかもしれない。</u> ・ <u>退学に至るまでに、教員と講師との面談（状況確認等）も必要と思う。</u> ・ <u>適切だと思う。</u> ・ <u>引き続きお願いする。</u> ・ <u>本人の意思、保護者の意思も確認する等出来ているので適切に行われている様に感じる。</u> ・ <u>4-2 と同意見。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-4 卒業生の活躍の状況	4 (4名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・劇団系に行く人が少なく残念だが、過去には進んでいる人もいる。学内での、特に劇団に関する進路先の周知が必要だと思う。 ・適切だと思う。 ・引き続きお願いする。 ・幅広い分野で活躍されており良い状況だと思う。 ・各方面で活躍している卒業生が多数いるにも関わらず、学校が把握している部分が非常に少ないように感じる。各業界で活躍する卒業生は学校と業界を繋ぐ強固なパイプになり得るので、是非一定期間は追えるような体制を整えて頂ければと思う。		

V. 生徒・学生支援

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-1 担任、担当者による進路・就職相談の実施	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.5 点
委員コメント ・良いと思う。授業を受講していない学生でも、適切にアドバイスができる分野に関しては、講師に声かけをしてくれても良いと思う。 ・適切だと思う。 ・引き続き対応をお願いする。 ・定期的に担当教員と面談を実施する等、適切に行われている様に感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-2 卒業後の進路調査の徹底	4 (2名) 3 (4名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント ・講師も知りたい。現在活躍している学生たちを、在校生にももっと広く知らせてほしいと思う。 ・卒業後（1年）の状況も、ある程度把握すると、更に傾向も感じられるのでは、と思う。 ・適切だと思う。 ・引き続きお願いする。 ・卒業時だけでなく、卒業後の状況も調査報告があると更に良いと思う。 ・卒業後もどのくらい進路先で就業していたのか調査が出来ると、定着率も分かり、今後の進路指導に役立つと思う。概ね3年後に調査するとよいと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-3 新たな求人の開拓のための活動 ※第2回 当日討議項目⑥	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント ・「新たな求人の開拓」という評価項目の表現が分かりにくいと思う。学生自身のリサーチができるようにしていくのが必要と思う。表方ではなく裏方をメインに募集している企業に来てもらうのも良いと思う。 ・事前にそれぞれの企業にどんな強みがあるかを、事前に学生が分かった上で、準備をしてから、説明会等を戦略的に行っていけば良いのではないかな。 ・卒業生が不安なく、社会にでて行ってほしいので、このような対応を続けてほしい。 ・ホームページも充実していると思う。 ・学生へのキャリア支援は、よくやっていると思う。企業の厳選もしやすくなったのではないかな。 ・企業がどのような人材を募集しているのか、学生が事前に知ることができれば、もっと良いと思う。 ・進路先が変わった場合、その方面の求人が充実すれば良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-4 カウンセラーによる学生相談室の設置 並びに相談システム	4 (5 名) 3 (2 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・とても良い事だと思う。</u> <u>・今の世代の子どもたちは、小学校からカウンセラーが学校にいた世代であり、我々よりも気軽に相談できると思う。そのため、とても良いことだと思う。</u> <u>・ぜひ、対応を引き続きお願いしたい。</u> <u>・学生相談室での実状はどのようなものか、知りたい。</u> <u>・臨床心理士による学生相談室の設置がされるだけでなく、毎回学生のカウンセリングの予約が埋まっている状況との事で適切に行われている様を感じる。予約が一杯でカウンセリングを受けたくても受けられない学生が出ない様にしていく事が、大切かと思う。</u> <u>・気軽に相談ができる環境は、学生の安心につながると思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-5 相談者の守秘義務の徹底	4 (7 名) 3 (0 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 4 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に対応されている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-6 相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・今後も連携をお願いする。</u> <u>・今後、コロナ禍の影響などで、心のケアの需要は続いていくかと思うので、教職員との連携はより密に行って頂きたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-7 奨学金制度の整備	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・学生の学びを保障し、卒業後も返済に迫られることのないような制度を、活用したい。</u> <u>・奨学金の選択肢が複数あり充実している印象。</u> <u>・難しいかもしれないが、学校独自の奨学金制度が1つでもあると学生としては嬉しいと思う。例えば特待生制度やエンターテイメント分野で全国的、世界的に名のあるコンテストで受賞した、などの功績を残した学生への奨学金など、将来のビジョンが見える学生には、何か支援する制度を今後設けても良いと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-8 奨学金貸与者の推移	4(7名) 3(0名) 2(0名) 1(0名)	平均 4 点
委員コメント <u>・とても良いと思う。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・給付型奨学金の利用者を更に増やしたいと思う。</u> <u>・適切に周知されている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-9 学生寮の有無、管理・サービス状況	4 (5 名) 3 (2 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・とても良いと思う。</u> <u>・将来的には、学生寮を確保できると良いと思う。</u> <u>・過去、取引のある学生寮が閉館した際にも迅速に対応しており、適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-10 定期健康診断の実施及び受診項目	4 (5 名) 3 (2 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・後日受診するよう伝えた学生の、その後はどのようなになっているか、気になる。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-11 卒業生のフォローアップ状況 ※重点項目②	4(2名) 3(4名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.1 点
委員コメント ・卒業生がどこに就職したかなど進路先を知りたい。ディプロマクラスはもっと宣伝するべき。 ・卒業生が卒業公演に来ると刺激にもなるし、その卒業生同士がディプロマクラスを受けられると、良いと思う。 ・卒業生と在校生がもっと交流できると良いと思う。交流の場があれば、保護者が子どもに勧めるきっかけにもなり、入学者の増加にもつながるのではと考える。ディプロマクラスはとても良いと思う。 ・ディプロマクラスには期待している。一方で今年は卒業公演に来ている卒業生が少ないように感じた。先輩の目も在校生にとっては励ましになるので、卒業生が来てくれる手だてを考えるべきと思った。 ・大変良いと思う。 ・同窓会は引き続き検討という段階だと思うが、ディプロマクラス新しく始めたということで、この仕組みは続けていった方が良いと思う。 ・卒業生で活躍している人がいるのに、それを知らないというのはもったいないので、同窓会作りは本当に必要だと思う。同窓会のシステムを作った方が良い。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-12 卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	4(0名) 3(5名) 2(2名) 1(0名)	平均 2.7 点
委員コメント ・コロナの感染症法上の位置づけも変わる事もあるので、ぜひ再び企業とも連携をとり、進めてほしい。 ・良いと思う。 ・感染症が落ち着いたら、制度の充実をお願いしたい。 ・個人調査となり、難しいことだが、少しでも知っておきたいことだと思う。 ・昨年はコロナ禍という不測の事態で仕方ない気もしたが、今は With コロナと言われ、コロナが不測ではない状況となっている。是非コロナ禍でも上手く連携ができる様にして頂きたい。 ・これからは With コロナの社会になっていく為、企業や業界との繋がりは維持していかなければならないと思う。その中で意見やコミュニケーションが取れる機会を持つ努力は、するべきであると思う。		

VI. 教育環境

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-1 施設の使用状況	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いしたい。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-2 普通教室、実習室の面積(全体、学年1人あたり)	4(4名) 3(3名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切だと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-3 保健室・休憩室の整備	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・感染症予防の側面からも、衛生的で問題無い様に思う。適切に行われていると思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-4 自学・自習室の有無	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・Office365 や Adobe Createive Cloud の導入など、素晴らしい取り組みだと思う。</u> <u>・学校の中のみならず、自身の PC やタブレットでどこでも自習・創作出来る環境支援も、今後は行っていく必要があると思う。それが卒業後も役に立つと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・引き続き対応をお願いしたい。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・感染対策については以前より厳重に対策されており適切かと思う。只、不審者の侵入等、刑事事件的なセキュリティ対策で言うと、もう少し強化の必要があるかもしれない。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-6 卒業生の利用希望への対応	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・コロナで、なかなか以前と同じにはいかないと思うが、外部への施設貸出もとても良い取り組みだと思う。</u> <u>・とても良いと思う。卒業生も、空いている施設の一覧が、スマートフォンから見られると良いと思う。</u> <u>・卒業生や外部の表現者の出入りは、在校生への新しい刺激ともなっていて、有効であると思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	4(4名) 3(2名) 2(1名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・些細なことだが、ヨガマットなどの備品を整理保管するための棚や、教室利用時に荷物や上着を置けるラックなどの備品を、もう少し拡充すると教室環境がさらに充実していくと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	4(5名) 3(2名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・wifi環境の整備は素晴らしいと思う。</u> <u>・とても良いと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・ソフトの充実に加え、Wi-Fi環境も整備され適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成 ※第1回 当日討議項目（第2回に繰り越し）	4（4名） 3（3名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.5 点
委員コメント ・ 稽古の進め方を知らない学生がいる。取り組み自体は良いが、いろいろなことを教えてあげてからの、リーダー、ということにした方が良いのではと思う。 ・ リーダーがいればまとまりもでるので良いと思うが、リーダーの活動範囲はよく分からない。学生リーダーという1つのポジションが、1年と2年の間のとりまとめをする立場であると良いと思う。 ・ 体制は良いと思う。リーダーのフォローアップを学校がしてもらえると、さらに良いと思う。 ・ リーダーを中心として、芝居を作りあげていく過程として人間関係を学ぶためにも、リーダーの存在は必要だと思う。 ・ 制度自体は良いと思う。 ・ 学生が主体性をもってやっているようなので、良いと思う。 ・ 学校行事が盛んで、この取り組みを積極的に行っていることは良いと思う。学生の主体性、自主性を重視しつつ、学校が軌道修正できれば良いのではないか。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	4（5名） 3（1名） 2（1名） 1（0名）	平均 3.5 点
委員コメント ・ 学校行事の際は、教職員の指導を伴う場面が多く、そのため手がまわりきらないこともあると思うので、なにか対策がとれればと思う。 ・ 良いと思う。 ・ 引き続きお願いする。 ・ 適切に行われている様に感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識 ※第2回 当日討議項目⑤	4(3名) 3(4名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・他の職員も、学生のことを把握しているように思う。 ・これまでになかった新しい問題もあるので、大変だと思うが、今後さらに深めてほしい。 ・先生の負担と、学生側が感じていることが、うまくいっているのであれば、良いと思う。 ・事務連絡以外で、学生との時間をもっと確保するためにも、教職員の体制は増やしていった方が良いと思う。 ・個別の面談・指導は、教員にとってもとても大変だと思う、それに取り組まなければいけない時代なのだと思うが、しっかりやっていると思う。 ・学科担当制なので、学生1人1人とピンポイントで対応できていて良いと思う。 ・学生だけでなく、講師にも担任などが周知されているか、分からない。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-12 正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント ・適切だと思う。 ・引き続きお願いする。 ・適切に行われている様に感じる。 ・予期せぬ事故は起こり得るものなので、そこに対する備えは重要。現に起きてしまった事故に対する再発防止策を講じることも、今後の対応のひとつと感じた。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-13 防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	4 (6 名) 3 (1 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・防災マニュアルを作成されており適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-14 防災訓練等による学生への防災対策の周知	4 (6 名) 3 (1 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・階段が多いので、非常の際足元が心配。</u> <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-15 防災訓練の実施状況及び方法	4 (5 名) 3 (2 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・必要な訓練を、次年度も引き続きお願いしたい。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・防災訓練の管轄が分からないが、AED も消火器と同じくらい誰もが使えることで、有効なツールなので、是非全学生、講師へも波及していくとよいと思った。</u>		

VII. 生徒募集

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-1 広報活動開始の時期、方法 ※重点項目③	4 (6 名) 3 (1 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.8 点
委員コメント ・ホームページは充実していると思う。歌やダンスだけでなく、演技の基礎も行っているということをもっと前面に出せば良いと思う。たとえばホームページに学生のブログなどを埋め込んで、更新を担当するというを行うことも良いのでは。演出家の先生に行っていただくのも良いと思う。 ・地方の方が見たときに、分かりやすいものであると良いと思う。施設も、使っているところを見せるのが良いと思う。学校の魅力について、入学者だけでなく、在校生にアンケートをとるのも良いのでは。学校の魅力を伝えられるような SNS の更新が有効的だと思う。 ・できることを全て行っていると思う。 ・ホームページの更新（動画など）をもっと行った方が良いと思う。あと、たとえば、学生が学校を語るというような動画や、現役の学生の声などがあると、生々しい言葉として伝わるのではと思う。 ・多岐にわたる広報活動を行っていると思う。今後たとえば、動画を Tik Tok で送ってもらうと優待できるなど新しいかたちができるかとより良いのでは、と考える。 ・基本的なところはしっかりとやっていると思う。広報活動をしている中で、どれだけ出願数があるかということが重要で、定員にまだ満たない場合は、どこかに原因があると思うので、それを調べて次につなげていけば良いと思う。「どうしてこの学校を選んだのか」という選ばれる理由、この学校の魅力を分析していくのが良いと思う。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-2 誇大広告の自己点検（学校案内等）	4（3名） 3（4名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.4 点
委員コメント <u>・とても見やすいホームページだと思う。コース枠を越えられるという強みは、もっと前に出しても良いと思った。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u> <u>・学校案内のパンフレットが、HP 上でも閲覧出来るとより良いかと思った。</u>		

VIII. 財務

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
8-1 学校経営における適正度の点検	4（5名） 3（2名） 2（0名） 1（0名）	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u>		

IX. 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
9-1 法令遵守の状況について	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・適切だと思う。</u> <u>・引き続きお願いする。</u> <u>・顧問弁護士にアドバイスを受ける等、適切に行われている様に感じる。</u>		

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
10-1 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制	4(6名) 3(1名) 2(0名) 1(0名)	平均 3.8 点
委員コメント <u>・他校より、地元、地域とのつながりが強いと思う。これからも継続して、より深めてほしい。</u> <u>・更に地域とのつながりが求められると思う。</u> <u>・とても良いと思う。</u> <u>・地域に愛され、学校の存在を深く知ってもらうためにも、ボランティア活動への参加は意義がある。学生の成長の助けとなると思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u>		

XI. 国際交流

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
11-1 留学生の受入れ・派遣のための体制整備	4 (4 名) 3 (3 名) 2 (0 名) 1 (0 名)	平均 3.5 点
委員コメント <u>・受け入れている留学生達は、やる気があると思う。</u> <u>・とても良いと思う。</u> <u>・ある程度、日本語に習熟している留学生であることは必要。留学生の文化、感性、世界観などは、他の学生にも良い刺激となると思う。</u> <u>・留学生いうより、一般学生で外国人がいるのかどうか、少し気になる。</u> <u>・適切に行われているように感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
11-2 国際交流の枠組	4 (2 名) 3 (4 名) 2 (1 名) 1 (0 名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・ぜひ海外研修を復活させてほしい。学生にとっても、目標になり、良い経験になるイベントだと思う。</u> <u>・コロナの位置づけも変わる事から、再び実施に向けての検討が望ましい。</u> <u>・とても良いと思う。</u> <u>・海外での研修の機会は、状況が許せば復活してほしい行事である。</u> <u>・コロナによる入出国の禁止等あったなか、出来る限りの事は行われている様に感じる。</u> <u>・これからアフターコロナに向かって、海外研修や異国の文化に触れられる機会を提供してほしい。国内でも出来ることはたくさんあると思う。</u>		

2022 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2023 年 2 月 22 日（水）14:10～

場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：14 名（敬称略）

（業界団体）高山 佳音里、ひの あらた

（業界関係者）小高 三良、

（業界企業）大西 伸行、竹下 恭平

（卒業生）砂田 明子

（自己評価委員）武田 光弘、山口 忠生、西垣 俊紘、鈴木 秀範、中迫 まい子、高橋 依里、熊谷 友也
（途中から参加）、広井 里佳（議事録）

欠席者：1 名（敬称略）

大島 幾雄

中迫氏が司会進行。

まずは武田氏が校長挨拶を行った。

次に司会から本日の流れの説明をした。資料は事前に送付済み。

- 1 校長挨拶及び趣旨説明 校長 武田 光弘
- 2 委員及び教職員紹介
- 3 委員長の選任
- 4 今年度の取組について
- 5 学生アンケート結果について
- 6 重点項目について討議
- 7 その他の項目について討議
- 8 今後のスケジュール確認

続いて**委員長の選任**について。

武田氏から、今年度も引き続き高山氏に依頼するかたちでどうかと提案があり、全員賛同で高山氏が続投することに決まった。

次に下記項目についてそれぞれ自己評価委員が説明をした。

- ・ **今年度の取組について**→高橋氏（② 今年度の取組について 参照）
- ・ **学生アンケート結果について**→中迫氏（③ 学生アンケート結果 参照）

次に、学校評価サイクルについて、中迫氏から下記説明を行った。

例年、自己点検・評価、学校関係者評価委員会をこの時期に行うことにより、1～3月の年度末に行われる卒業公演等の行事について、講師・企業の皆様、そして学生、本校職員の意見を反映することが難しいため、来年度以降は、学校評価サイクルを1年ずらし、昨年度の内容・実績を翌年度の春に自己点検・評価に反映し、学校関係者評価委員会を夏～冬にかけ数回開催する予定。これにより、退学率や就職率等も正確な数字が反映され、1年間で網羅された学校評価となり、より計画的な改善策を実施することが可能となる。

なお施設案内は今回も省略した。

次に3つの重点項目についての説明及び学校関係者評価委員による評価等を行った。

詳細は下記のとおり。

重点項目① 実習システムの現況と今後の見直し（Ⅲ－5）

竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

表現者でインターンはやはり難しい。現場の空気を感じるだけでも、普通ではできないことなので、それを学校の強みにできると思う。進路の選択肢が増えるとより良いと思う。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学生が現場に立ち合って見る、ということはなかなか難しいと思う。ただ学生は現場を知った方がいいと思う。たとえば劇団員のリアルな話を聞く場を作ることがいいのではと思う。

高山氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

今後どんなふうになるか分からないので、評価は3。

舞台監督をやっている役者や、仕込みばらしを行っている役者に話をしてもらうというのは企画としてできそう。ステージツアーを役者やスタッフが案内することも行っているの、そのようなことも企業実習としてもできると思う。

ひの氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

準備をしてみにいく、それをあとから活かすのが重要。

急に現場に行ってただ体験するだけだと意味がないと思う。

現場を見に行く機会を増やすだけでなく、そのための準備をする、クリエイションできる場所があると良いと思う。企業実習の前に、小さい作品でも作っていくということの方が良い。

大西氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

前回エンタメの仕事でインターンというものは、やはり難しい、と感じていたが、企業実習の話が進んでいるようなので、この評価。

砂田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学生からしてみれば、この企業実習という経験は大切なことだと思う。

重点項目② 卒業生のフォローアップ状況（V-11）

まずは司会から、下記説明を行った。

現状、2018 年度卒業生からは学校オフィシャル LINE での連絡が可能。

それ以前の卒業生はメールや LINE 等での連絡手段が無く、今年度 2013 年度卒業生～2017 年度卒業生にはディプロマの告知をハガキで行ったが、今後は、卒業公演やミュージカル公演のお知らせをメーリス等
でできる環境を整えて、まずは公演に来てもらい、公演後に卒業生との交流の場を設けるなど、本校独自の同窓会の在り方を考えたい。という説明を行った。

次に理事長から、「後輩の公演を先輩である卒業生が観にきてくれることで、1 つのコミュニティを作っていきたい、そのような場の中で、卒業生から在校生へのアドバイスや情報交換などもあるとありがたいと考えている」という説明を行った。

竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

卒業生で活躍されている人がいるのに、それを知らないというのはもったいないので、同窓会作りは本当に必要だと思う。同窓会のシステムを作った方が良い。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

ディプロマクラスには期待している。俳優にも戻り修行ということを行っている人もいる。

今年は卒業公演に来ている卒業生が少ないように感じた、先輩の目も在校生にとっては励ましになるので、卒業生が来てくれる手だてを考えるべきと思った。

高山氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

卒業生がどこに就職したかなど進路先を知りたい。ディプロマクラスはもっと宣伝するべき。

ひの氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

期待を込めて、この評価。卒業生が卒業公演に来ると刺激にもなるし、その卒業生同士がディプロマクラスを受けられると、良いと思う。

大西氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

同窓会は引き続き検討という段階だと思うが、ディプロマクラス新しく始めたということで、この仕組みは続けていった方が良いと思うので、この評価。

砂田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

卒業生と在校生が交流できると良いと思う、交流の場があれば、保護者が子どもに勧めるきっかけにもなって、入学者の増加にもつながるのではと思う。

ディプロマクラスはとても良いと思う。

重点項目③ 広報活動開始の時期、方法（Ⅶ－１）

西垣氏から、この項目の内容の簡単な説明を行った。

竹下氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

基本的なところは、しっかりやっていると思う。広報活動をしている中で、どれだけ出願数があるかということが重要で、定員にまだ満たない場合は、どこかに原因があると思うので、それを調べて次につなげていけば良いと思う。「どうしてこの学校を選んだのか」選ばれる理由、この学校の魅力を分析していくのが良いと思う。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

ホームページの更新（動画など）をもっとした方が良いと思う。あとたとえば、学生が学校を語るというような動画や、現役の学生の声などがあると、生々しい言葉として伝わるのではと思う。

高山氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

ホームページは充実していると思う。歌やダンスだけでなく、演技の基礎も行っているということをもっと前面に出せば良いと思う。

たとえばホームページに学生のブログなどを埋め込んで、更新を担当するというものを行うことも良いのでは。演出家の先生に行っていただくのも良いと思う。

ひの氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

地方の方が見たときに、分かりやすいものであると良いと思う。

施設も、使っているところ見せるのが良いと思う。学校の魅力について、入学者だけでなく、在校生にアンケートをとるのも良いと思う。学校の魅力を伝えられるような SNS の更新が有効的だと思う。

大西氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

多岐にわたる広報活動を行っていると思う。今後たとえば、動画を Tik Tok で送ってもらうと優待できるなど新しいかたちができるより良いのでは、と考える。

砂田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

できることを全て行っていると思う。

今回から重点項目以外の項目も討議項目に加えたため、引き続き評価を行った。

当日討議項目① セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成（Ⅱ－15）

竹下氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

学校としてしっかり対応していると思う。特に教育現場でどこまでいったらハラスメント、という境界線は本当に難しいと思う。相手とのコミュニケーションでカバーしていくしかないこともある。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

ハラスメントの基準は時代に応じて変わっていくと思う。自分では気づかない部分があると思うので、匿名でなにかあったので注意しましょうというような、ハラスメントの規制が必要だと思う。

高山氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

叱るとハラスメントの境界線が難しい。思い込みなどで加熱してしまう危険もあると思う。

ルールブックなどを学生に配布するのも良いのではないかな。

ひの氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学校側の基準を作ったり、対応窓口を作るなど、学校がフォローしていくことが重要。

より具体的にしていけば良いと思う。

大西氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

できる限りのことはやっていると思う。これをやったらハラスメントというような文言があると良い。

砂田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

基準を作って共有する、ハラスメントについての生徒向けの勉強会があっても良いと思う。

続いて下記2点も当日討議項目であったが、時間の都合で次回第2回に討議することとした。

②教育方法の工夫・研究の取り組み（Ⅲ－7）

③学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成（Ⅵ－9）

最後に司会から下記説明を行った。

・評価シートの提出について

評価シートは、3月3日（金）までにメール、または郵送にてご記入の上、提出してほしい旨説明した。

・次回の委員会について

次回開催日は、3月14日（火）14:00～。

そこでは、今回討議できなかった2項目と、学校関係者評価記入シート内に【第2回 当日討議項目】と記載している6つの項目の評価・討議の時間とし、さらに次年度の取組について説明する予定。

その際に、事前にご提出いただくご評価をひとつの報告書にしてご覧いただく。そこに当日討議項目を後日追加し、今年度の学校関係者評価報告書とさせていただく予定。

最後に、例年同様評価の公表にあたり、学校関係者評価委員会の皆さまのお名前をホームページ等で掲載させていただく旨、改めて説明を行い、この会は16:30に終了した。

以上

令和 4(2022)年度事業計画書

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

学校法人 日本芸術学園

1. 2021 年度 教育目標

□3 つの理念

感動の教育…感動は人生の窓を開く。感動が行動を起こし行動が人生を変える

品格の教育…知識・技術・人格・礼節を兼ね備えた品格ある人間を育成する

変革の教育…変革（Change）挑戦（Challenge）達成（Conquest）

□2 つのミッション

「Precious Treasure 教育」すべての学生にかけがえのない宝物を提供する

「100%」卒業生が100%満足できる進路を提供する

2. 2022 年度 事業計画概要

各校舎、引き続きカリキュラムの見直しや学科の再編、コースの見直しに伴う一部講師の入れ替え、それぞれの専門分野で活躍している講師陣を招き授業の新設など、「選択と集中」を積極的に行うことで、芸能の世界の新しい風を常に取り込んだ、質の高い教育を提供する予定。

今後アフターコロナを見据えるとともに、少子化が進む中で、これまでの1学年の人数を増やしていくという考え方から、高専一貫教育によるシナジー効果、また専門学校への卒業生を対象とした附帯事業の設置、4年制の学科設置などを進めていくことで、縦の学年を増やしていくという考え方へシフトすることで、募集費用の大幅な削減が可能となり、費用対効果を上げていくことに注力する。また専門学校では、他の音楽大学との相互教育の実現に向けて動き始めており、今後他の学校との連携も強めていく予定。

1) 主な年間行事予定

日本芸術専門学校

・主要イベント

□ガイダンス

4月11日12日、学年ごとに、必修を含めたカリキュラム、年間スケジュール、進級・卒業要件等、学校生活についての説明会を実施予定。

□レクリエーション

4月27日、大森校地下ホールにて、感染リスクを抑えて親睦を図るイベントを実施予定。

□特別講義

4月13日28日、劇団民藝の演出部による1年生向け舞台機構と業界マナー講座、リクルートによるマナー研修、株式会社日音による1年生向け著作権講座、マイナビによる2年生向けSNS講座を実施予定。

□芸術鑑賞授業

8月20日 Summer Sonic 2022、11月 東京国際映画祭、その他ミュージカル、ストレートプレイの作品を芸術鑑賞予定。

□ミュージカルプロジェクト

9月2日～4日、上演予定。グループ校の高等課程の生徒からの参加者も募集予定。

□学園祭

10月8日、来校者を迎えての通常開催予定。

(またはオンライン配信併用、オンライン配信のみのいずれかで実施予定)

□Precious Audition

11月16日18日、多数のプロダクション・劇団の方を招き、オンライン配信併用で実施予定。グループ校の高等課程からも参加者を募集予定。

専門生は進級・卒業試験も兼ねており、1人1人ステージ上でパフォーマンスを行い、評価を貰い、プロダクション・劇団の方との所属面談で進路を決定する。

□年度末試験

12月19日～24日、各授業で筆記や実技の試験を行い、1年間の出席率と試験点数により授業の成績が決まる。

□総合舞台制作

2023年2月4日～23日、コースごとの総合舞台制作を4公演実施予定。

□校外学習

2023年2月24日、ディズニーリゾートにてパレードやショーを観劇予定。

・その他

□ミュージカル学科の設置、ミュージカルヴォーカルの門下制化、演技科目の授業拡充

□本校または他校の卒業生を対象としたディプロマクラスの開講

□講師の有志のコミュニケーション会設置、授業クラスごとに Google Classroom を作成

日本芸術高等学園

・主要イベント

□4月28日 新入生歓迎部活発表会

生徒たちの活動の場を広げ、より充実した高校生活を送るため、すべての部活動の紹介を、実技を交えて行う。

□5月18日 芸術鑑賞会

東宝ミュージカル 「四月は君の嘘」を観劇し、知識や教養を養う。

□5月31日～6月3日 修学旅行

1. 東北の被災地を訪れ当時の状況を把握し、今後の防災対策意識を養う。
2. 炭鉱閉鎖により大きな経済的損失が生じた地方自治体が、その後、エンターテインメントビジネスにより復興を果たしたが、現地で行われているエンターテインメントに触れ楽しむ。
3. 英国より英国的と言われているブリティッシュヒルズを訪問し、英国の疑似体験、および英語による研修を受け、英国的な環境を楽しむ。

□6月17日 芸術鑑賞会

劇団四季 「バケモノの子」を観劇し、知識や教養を養う。

□7月19日・7月19日～7月25日 前期試験

定期考査を通じて、学習の習熟度・理解度を確認する。

□10月8日～10月9日 文化発表展

授業で学んだことを活かし、部活動発表や個人パフォーマンスを披露する。

保護者や講師に見せることはもちろん、生徒募集の兼ね合いで中学生、進路指導の一つとして芸能プロダクション各所にも見学してもらう。

□1月18日・1月23日～1月27日 後期試験

定期考査を通じて、学習の習熟度・理解度を確認する。

□2月25日・2月26日 3年生を送る会・感謝祭

一年間の総まとめの発表を行う。

保護者・講師・在校3年生に見てもらう。

□3月9日 卒業式

卒業の区切りとして式典を行い、卒業証書及び資格証書の授与を行う。

□7月27日・28日

12月22日・23日

3月10日・13日 特別ワークショップ

通常の授業では学ばない教科や体制・体系でのカリキュラム。

生徒の興味関心を高め、やる気のある生徒の能力を伸長することを目的とする。

東京表現高等学院 MIICA

・主要イベント

- 4月14日：健康診断
- 4月15日：新入生歓迎会 | 感染症対策を整えたイベントの教育として生徒と共に企画実施
- 4月29日（祝）：特別時間割編成実施／AM 避難訓練／PM 進路説明会
- 5月23日：帝国ホテル／洋食マナー研修（2年生）
- 6月13日：国立劇場／歌舞伎鑑賞教室（1年生）
- 6月22日：国立能楽堂／能楽鑑賞教室（2年生）
- 7月中旬：前期期末試験期間
- 7月27、28、29日：特別ワークショップ夏期 | 外部講師を多数招聘し3日間全20講座以上を予定
- 9月17、18日：秋の芸術祭（総合芸術学） | 世情を鑑みリアル&オンライン両スタンバイ、新入生募集企画も実施
- 11月29、30、12月1日：修学旅行／北海道（2年生）
- 12月9日：国立劇場／文楽鑑賞教室（3年生）
- 12月19、20、21日：特別ワークショップ秋期 | 外部講師を多数招聘し3日間全20講座以上を予定
- 1月19日：舞浜アンフィシアター／劇団四季ミュージカル「美女と野獣」（2年生）
両国国技館／大相撲初場所（1年生）
- 1月末～2月上旬：後期期末試験期間
- 2月8、9、10日：クリエイティブワーク発表会 | 授業だけに縛られない独自のクリエイティブを1年間で準備制作し発表。進級審査対象
- 3月4、5日：春の芸術祭（総合芸術学） | 世情を鑑みリアル&オンライン両スタンバイ、新入生募集企画も実施

・その他

- 1人1台 Macbook+AdobeCC 付与の環境を継続。Illustrator、Photoshop、PremierPro 各ソフトを使用した通常授業を継続的にこなう一方、
AdobeDreamweaver を使用する「ウェブデザイン基礎」、3DCG フリーソフト Blender を使用した「3DCG 制作基礎（仮称）」を選択授業に導入。
通常授業「ビジネス概論」による座学教育との連携を含め、メタバース社会への入口教育をおこなう。
- ICT 教育の合理的部分を継続活用。Zoom、Google Classroom、Slack を生徒／教職員／学校間の日常的連絡および授業環境で継続使用し、
遠隔地間からのゲストスピーカーによる教育を増やすことでさらなる教育の質向上に務める。

2) 学生生徒支援

- ・ 各種奨学金や助成金等

学生生徒の教育費負担を軽減するため、各種奨学金や助成金等が用意されている。

□奨学金 日本学生支援機構、日本政策金融公庫、オリコ学費サポートプラン、新聞奨学生、

公益社団法人 東京都私学財団 東京都育英資金貸与事業

□高等課程において、国が学費の一部負担を行う就学支援金制度や東京都が行う授業料軽減

助成金、奨学給付金などの支援がある。

□日本芸術専門学校 「高等教育の修学支援制度」認定校として更新申請予定。

- ・ カウンセリングの機会を引き続き提供

退学防止の取り組みの一環として、昨年度に引き続き、カウンセラーによるカウンセリングを定期的に行う。

3) 施設修繕・整備

学内施設の修繕・整備については優先順位をつけて計画的に行うことで、充実した教育環境を整える。施設修繕や整備に関連した補助金についても積極的に申請予定。

今年度の大きな修繕計画として、日本芸術専門学校では電気設備（キュービクル）の新規リニューアル、日本芸術高等学園では屋上及び外壁の防水工事、東京表現高等学院 MIICA では汚水槽の排水ポンプ交換を予定している。

3. 2022 年度 予算について

・ 予算方針

2022 年度において、日本芸術高等学園の生徒数が昨年度と比較して増加し、1 年生は 2 クラスとなった。しかし 3 校舎とも定員充足には至っていない状況のため、引き続き経営状態は厳しいものとなっている。

今後新しい取り組みをさらに積極的に導入し、また昨年度以上に費用対効果を分析し、効率よくメリハリをつけた事業を展開することで、全ての校舎における教育活動収支のプラスを継続し、借入金に頼らない健全な経営にしていく計画。

また予算消化の状況を各校舎が常に正確に把握し、さらに教職員一人ひとりが提案型の意識を持ち、新しい取り組みを各校舎が主体となって積極的に行えるよう、校舎間の情報共有や連携を強化していく。

・ 広報、学生生徒募集について

少ない予算で、いかに効率良い広報活動ができるか、ということを念頭に置き、中学校や高校への募集活動はもとより、芸能を目指す人や団体に対して積極的な広報活動、さらには日本芸術専門学校で今年度開始予定の附帯事業における募集を展開していく予定。

また各校舎、ペーパーレス化をさらに進めていくことで、印刷費や通信費の削減にも取り組む。日本芸術高等学園及び東京表現高等学院 MIICA では、今後出願方法に関して、日本芸術専門学校と同様の仕組みを導入し、これまでの紙面＋郵送メインからオンライン出願へ移行する予定。

さらに、引き続き時代のニーズに合ったあらゆるツールを駆使し、学校の魅力を内外に積極的に発信していく。

- ・人件費について

日本芸術高等学園の1学年のクラス数を2クラスに増やしたことに伴い、講師料が昨年度より増加予定。

また学園全体で、昨年度に引き続き教職員の個々の働き方を見直すことで、可能な限り残業代を削減し、業務の効率化を図る。

以上

2022 年度 今年度の取組について

① 学生対応について

《概要報告》

・近年、稽古や小屋入り後も欠席をする学生が多く見受けられることから、学園祭・卒業公演のルールを強化し、通常授業の出席率と同時 70%以上の出席で単位修得、実習は 50%まで、場当たり・ゲネプロを欠席した場合は単位修得不可とし、厳しく管理をしていくことにした。

・体調不良や精神の不調者の救済措置として前期のみで単位を修得できるようにし、今年度は学生には公表せず職員内での共通認識とした。

2023 年度からは前期もテスト点がつくことを学生に周知し、休学した場合の前期単位修得措置は該当者のみ通知することとした。

・昨年度より正式に導入を開始した臨床心理士によるカウンセリングを引き続き、定期的を実施し、学校生活、人間関係、その他の悩みに対する学生の心のケアに努めた。

・学生の退学率は昨年度の 7.4%(7 名)から今年度は 6% (5 名) に減少している。

・学生の進路を決める「プレシャスオーディション」は、昨年度に引き続き、グループ高校とも連携し高校生の参加者も募る事でグループ連携を図った。

学生の就職の機会獲得、モチベーションアップに努めた。

実施に際しては、新型コロナウイルスの感染症対策を行い、来校のみとした。

・授業クラスルごとの Google クラスルームを作成し、講師と学生がオンライン上でやり取りできるようにし、講師と学生の個人情報の保護しながら、コミュニケーションがとれる環境を新たに提供した。

・授業や教室利用で事故や不審者等、万が一の時に備え、各教室に緊急連絡先の掲示を行い、職員全員が救命処置を行えるよう、救命救急講習を受講した。

② 「ミュージカルコース」の授業増設について

《概要報告》

「ミュージカルコース」については学生の歌唱力強化のため、ミュージカルヴォーカル授業の門下生制度による個人レッスン、新たに 1 年次に舞台演技の授業の必修化、技術面以外の専門知識獲得のための「ミュージカル研究」授業などを計画中。

③ コロナ禍での「学園祭」「総合舞台制作」について

《概要報告》

・卒業公演までの中間発表の場となる 10 月 10 日の学園祭では、可能な限りの感染防止策を講じ、3 年ぶりに有観客で開催を行った。約 240 名が来校。当日の様子はアーカイブでも公開中。

現在、7847 回再生されている。再生コンテンツトップはミュージカルで 1924 回。

・2023 年 2 月から開催予定の総合舞台制作（卒業公演）については、厳格な感染防止ガイドラインを策定し、ゲネプロ前の抗原定性検査と PCR 検査を全員に実施、紙の入場チケットを全面廃止してデジタル化するなど、有観客でも安全な公演の実現に向けて努力していく。

・卒業公演実施にあたり、今年度は 3 年ぶりに学生による協賛広告活動を再開し、地域のサポートや卒業公演の宣伝活動を行った。

※参考資料「協賛広告」（当日資料を配布いたします。）

④ コロナ禍での「ミュージカルプロジェクト」について

《概要報告》

・9 月に予定していたが、新型コロナウイルスの影響を受け、3 月に公演を延期した。

今後も公演の安全性と作品としてのクオリティ・臨場感の両立を目標に、可能な限りの感染防止ガイドラインを策定と徹底、ゲネプロ前の抗原定性検査と PCR 検査を全員に実施、紙の入場チケットを全面廃止してデジタル化するなど、公演の実現に向けて努力していく。

⑤ 「機材の充実」について

《概要報告》

・授業以外でも学生が自主的に撮影等できるように関連機材を購入し環境を充実させた。

・Wi-Fi 環境についても遅延が起きない様に配線や機器環境の見直しを図り、学生にも学内 Wi-Fi を引き続き提供している。

⑥ 附帯教育「ディプロマ・クラス」の開講について

《概要報告》

・今年度より附帯教育としてディプロマ・クラスを開講した。ディプロマ・クラスでは、ハイレベルな実技レッスンの受講と、外部向け公開オーディション「プレシャスオーディション」への参加、そして個人練習としての施設利用等ができる。

これにより、卒業後もレッスンを継続して、より高度な技術を修得し、希望する劇団やプロダクションへの入所や、プロの世界へ進むチャンス獲得を引き続き目指すことが可能となった。

2022 年度 学生アンケート結果

1. 年間を通して授業を受けて思ったこと、感じたこと。

- ・初めてのことで難しいことも多かったけど楽しんできましたと思います。
- ・ミュージカルの必修授業が多すぎて自由に履修できる授業が少なく感じました。
- ・去年学べなかったことも学べて、新しいこともあった。
- ・自分で選んだ授業を受けられること、有難いなと思って受けていました。ただ人によっては、授業によって態度に差があったり雰囲気の良くない瞬間があったり、複雑な気持ちになることもあります。
- ・必修が多くて取りたい授業が取れませんでした。
- ・全体の授業数が少ないなあとは思っています。
- ・1回も休まずに参加出来て良かった。ただ、単位がオーバーしてしまうから他にも取りたい授業が取れなかったのは痛かった。歌の授業がもっと欲しかったなと思った。

>必修授業の多いミュージカルコース二年生から、さらに授業を履修したいとの意見がありましたが、次年度以降のミュージカル学科については、授業料の増額が決まっており、単位についても上限を引き上げ、より授業を履修できるよう環境を整えています。

一方で、必修については、学生のスキルや傾向、そして業界の傾向を見て、職員会議を複数回行い、卒業に必要な科目を決定しており、必修の数でコースを選択することのないように、各コースで必修数に偏りが出ないようにしています。

また来年度は、ミュージカルコースや映像俳優コースに対しても舞台演技の必修を設け、舞台俳優コースは新たに1年生の必修を設けることを予定しています。

>授業回数に関しましては、本学は法定の授業時間数 30 単位時間を超える 36 単位時間のカリキュラムを提供しています。

2. 行事(ガイダンス、入学式、オリエンテーション、特別講義、学園祭など)で思ったこと、感じたこと。

- ・やっぱりステージに立つのは楽しいし、これからもそういうところに立てるように頑張ろうと思った。
- ・学園祭はとても大変でしたが、有観客ということでお客さんが目の前にいる状態でパフォーマンスするという緊張感はとても貴重な体験で、これから活かしていきたいと思いました。
- ・詳しい日程が確定するのが遅く、他の予定が立てられない。
- ・コースが違って交流関係を深めることができたので安心した。
- ・色んなコースの刺激を受け、勉強になった。

・コミュニケーションに苦手意識を感じていましたが、同級生や先輩のおかげで楽しい行事になりました。学園祭では大変なこともありましたが、自分の成長も感じられてよかったです。

>特に一年生からは、本校に入学し学ぶ事に対しての喜びの意見も多数投稿されました。

>行事日程につきましては、4月に学校行事が記載された年間スケジュールを配布し、

LINE やクラスルームにて行事について再度お知らせをしております。しかしながら、今年度においては、場当たり・ゲネプロに来る必要がないと思っている学生がいたため、都度、全体に向けて説明の場を設けたり、文章でも説明するなどの対応を行い、卒業公演では稽古開始日から本番までを含めて、他授業同様に出席率が70%に満たない場合は単位が修得できないルールを設けました。

また、次年度から予定している企業実習にて、外部公演の現場を経験し、場当たり・ゲネプロの重要性や、どれだけのスタッフがどれだけの時間をかけて公演ができているのかを実感し、もっと視野を広げて公演に取り組んでいけるような学びの場にしたいと考えています。

3.その他、(施設設備や学校生活のことなど)

- ・雨漏りしている箇所など、異常な所を直してほしい。
- ・同期の人間関係が心配です。
- ・授業に来ない子が多くて、内容が制限される。

>修繕につきましては、まず雨漏り診断を行い、適宜修繕を行う計画となっております。

>欠席の多い学生、人間関係につきましては、都度学科担任が面談または臨床心理士によるカウンセリングを行っております。

2022 年度 第 2 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2023 年 3 月 14 日（火）14:00～

場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：15 名（敬称略）

（学識経験者）大島 幾雄

（業界団体）高山 佳音里、ひの あらた

（業界関係者）小高 三良、

（業界企業）大西 伸行、竹下 恭平

（卒業生）砂田 明子

（自己評価委員）武田 光弘、山口 忠生、西垣 俊紘、鈴木 秀範、中迫 まい子、高橋 依里、熊谷 友也、
広井 里佳（議事録）

熊谷氏が司会進行。

まずは武田氏が校長挨拶を行った。

次に司会から、前回欠席した大島氏の紹介をし、そのあと配布資料の説明をした。

配布資料は下記のとおり。

- ① 本日の議題
- ② 2022 年度 学校関係者評価 報告書
- ③ 2022 年度 自己点検・評価
- ④ 日本芸術専門学校 2023 年度の取組
- ⑤ 2023 年度 授業時間割
- ⑥ 2023 年度 学科・コース編成／必修科目一覧
- ⑦ 2023 年度 年間スケジュール

次に司会から、

学校関係者評価報告書は未完成の状態、本日の討議項目でいただく評価を加えて、完成とさせていただく、そのため完成した報告書を後日委員の皆様にもメールでお送りするので、確認をしていただきたい旨、及び報告書は例年どおりホームページで公開されるが、報告書の中の評価やコメントに委員の皆様のお名前は記載されないということや、学校関係者評価委員の構成や、各回の議事録については、委員の皆様のお名前を表記させていただく旨、説明があった。

次に司会から、前回配布した自己点検評価の項目の中で、一部修正した項目がでた旨説明があった。
修正したのは下記の項目。

【資料③ 自己点検・評価】「11-1 留学生の受け入れ・派遣のための体制整備の内容」について。

近年の留学生受け入れ実績の表に 2022 年度分が明記されていなかったため、修正した。

この訂正に伴い、【資料② 学校関係者評価 報告書】42 ページの 11-1 留学生の受け入れ・派遣のための体制整備の委員コメントにて、高山氏の評価コメントを一部削除させていただきたい旨、説明し、高山氏は快諾した。

この修正に伴い、他の委員で評価や評価コメントの修正を希望する方はいなかった。

続いて、本日の討議項目に入った。

まずは前回時間の都合でできなかった2つの項目について。

詳細は下記のとおり。

前回討議項目② 教育方法の工夫・研究の取り組み（Ⅲ－7）

竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学校でできない部分ができるのか、もしくはできることをさらにプラスする役割があるのか、いまいち内容が分からない。

ひの氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

東京音大を通じて、より専門的に経験できるのであれば、この評価。アウトプットをより能動的にできれば良いと思う。

高山氏の評価「2」下記はそれに対する意見。

たとえば自身の授業では、クラス内発表を動画でとって、お互い見合ったり、テストの一環として代用していたが、アウトプットの場を設けている授業を見たい。東京音大の交換授業というのは、もっと具体的に知りたい。他学科の情報をもっと知りたいと思う。

小高氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

講師と話しをする機会が少ないのが、少し残念な気がする。講師同士の意見交換ができれば、もっと良いと思う。

大島氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

評価項目の内容に具体性がないので、この評価。形式的になっていないか気になるので、この評価とした。

ここで、自己評価委員の西垣氏より、東京音大との交換授業について、「本校で声楽を学びたい学生が東京音大で声楽を学び、逆に東京音大でミュージカルを学びたい学生は、本校でダンスやボーカルを学ぶというなかたちを現在とっている。今年度はプレ授業として設定し、来年度はさらに充実させたい」と補足説明を行った。

(ただし、この補足説明は、自己点検評価からは読み取れないため、補足説明を受けて、上記の学校関係者評価委員の方が評価を変更することはなかった。)

大西氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

今までとちがうアクションを起こした、一方で内容はわからないので、この評価。東京音大以外にも連携しようとしている学校があるのか気になる。

自己評価委員の中迫氏より、東京音大以外というところで、音響芸術専門学校との連携がある旨、補足説明を行った。具体的には、音響芸術専門学校には役者がいないので、映像製作で本校の学生が役者として関わったり、本校からレコーディングを行いに外向いたり、本校の地下ホールで実践的な授業をしたりしていると説明した。

砂田氏の評価「4」下記はそれに対する意見。

声楽を取り入れるのはとても良いと思う。

前回討議項目③ 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成 (VI-9)

竹下氏の評価「4」下記はそれに対する意見。

学校行事が盛んで、この取り組みを積極的に行っていることは良いと思う。

学生の主体性、自主性を重視しつつ、学校が軌道修正できれば良いのではないかな。

ひの氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

リーダーがいればまとまりもでるので良いと思うが、リーダーの活動範囲はよく分からない。

学生リーダーという1つのポジションが、1年と2年の間のとりまとめをする立場であると良いと思う。

高山氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

稽古の進め方を知らない学生がいる。取り組み自体は良いが、いろいろなことを教えてあげてからの、リーダー、ということにした方が良いのではと思う。

小高氏の評価「3」下記はそれに対する意見。

リーダーを中心として、芝居を作りあげていく過程として人間関係を学ぶためにも、リーダーの存在は必要だと思う。

大島氏の評価「4」下記はそれに対する意見。

制度自体は良いと思う。

大西氏の評価「4」下記はそれに対する意見。

学生が主体性をもってやっているようなので、良いと思う。

砂田氏の評価「4」下記はそれに対する意見。

体制は良いと思う。リーダーのフォローアップを学校がしてもらえると、さらに良いと思う。

次に、本日の討議項目に進んだ。

詳細は下記のとおり。

当日討議項目① カリキュラムに対する学生・卒業生の評価（Ⅲ－３）

竹下氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

学生からの評価も大事だが、学生の就職先にどのくらい役に立ったか、講師の先生、いろいろな角度からの評価が必要だと思う。

今後カリキュラムをどう振り切っていくか、究極的には少人数で質をとるか、多少人数を多くしても量をとるか、どちらかの選択を迫られることになっていくと思うが、今後の期待も込めてこの評価。

ひの氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

学生だけでなく、卒業生の評価なども知りたい。授業が就職先にどのくらい役に立ったのか、ということも今後知りたい。

高山氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

学生たちは、「少人数」をどう捉えているのか、気になる。そのため「少人数」という表現ではなく「定員を設け」という表現の方が良いのではないか。卒業生が、これをやっておけばよかったというような話を、在校生にしてもらおう場などがあれば、生きた声が在校生に染みと思う。

小高氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

少人数制は良いことだと思う。科目ごとに適正な人数を学校側で抑えておくことも必要かと思う。

大島氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

自己点検評価の「履修希望者が多い場合は抽選を行った年度の途中で授業に来なくなり、定員に余裕ができた場合は聴講可能授業として開放する科目を設けた」という表現が、途中で授業に来なくなったから、良かったという見え方になりかねないので、この評価。

大西氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

昨年度の問題点等を解決しているように見えるので、その点は良いと思う。

周りの評価で、なにか目に見えるものがあればより良いと思う。

砂田氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

コロナも明けるので、より、受けたい授業を受けられるようになれば良いと思う。

当日討議項目② 卒業生・企業等の評価と活用（Ⅲ－9）

竹下氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

かなり前から続けていて、企業も途絶えることなく来ているので、良い取り組みだと思う。
これから外にでていく先の評価を受けられることは、在校生にとってとても良いと思う。

ひの氏の評価「2」。下記はそれに対する意見。

どんな評価項目（学生評価）になっているのか、分からない。次に活きるような評価項目にしていくのが良いと思う。

高山氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

以前から良いことだと思っている。ただ、プレシャスオーディションに頼りきってしまう学生がいるように思う。行きたいところは調べる、最終的には自分で決めるという指導を、より積極的にした方が良いのではないか。企業からもらった評価のフィードバックの場があった方が良いと思う。

小高氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

学生でいられる間に、企業との接点（交わる機会）があるのは、とても良いと思う。
今後所属の学生が増えると、より良いと思う。

大島氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

とても良い取り組みだと思う。

大西氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

学生にとっては、次年度に活かして良いと思う。システムとして成熟している印象。
一方で、学生に足りないスキルがないようにしようと考えすることで、バランス型の人材を作ろうとしているように感じる、企業の中には、バランス型ではなく、特化型で人材がほしいところもあると思うので、特化型の学生でもチャンスがつかめるようになってほしいと思う。

砂田氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

評価をネガティブに捉える学生がいると思うので、評価のフォローは本当に必要だと思う。

続いて、③～⑤の項目については、内容が関連しているため、3項目まとめて評価をしていただきたい旨、司会から説明があった。

当日討議項目③ 成績不良者への対応（Ⅲ－10）

当日討議項目④ 教員1人あたりの学生数の割合（Ⅲ－22）

当日討議項目⑤ 担任制による学生への対応の徹底と認識（Ⅵ－11）

3-10 について、竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

出席率の低い学生＝成績不良者と一概にいいか、分からないが、出席率の低い学生に対して、面談やサポートなどをしていく必要があると思う。出席率の低い学生に対して、事前にもう 1 アクション学校からあっても良いと思う。道筋を一緒に考える体制は良いと思う。

3-22 について、竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

専門学校となると、将来に直結していくので、教員は多い方が良い。

6-11 について、竹下氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学生だけでなく、講師にも担任などが周知されているか、分からないので、この評価。

3-10 について、ひの氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

成績不良者にはいろいろな事情があると思う。今の世の中の流れや風潮などで、いろいろと大変だと思うが、より充実して欲しい。

3-22 について、ひの氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

経営的なことも考える必要があり、教員が多ければ多い程良いというだけではないので、妥当だと思うが、今後余裕がでてきたら改善したり、ケアをうまくして欲しい。

6-11 について、ひの氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

これまでになかった新しい問題もあるので、大変だと思うが、今後さらに深めて欲しい。

3-10 について、高山氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

補習にでている学生の質が上がっているように思う。取り組みをしっかりとっていると思う。

3-22 について、高山氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

職員にどの程度負担か、やりがいがあるのか、図りかねる。

6-11 について、高山氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

他の職員も、学生のことを把握しているように思う。

3-10 について、小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

出席率に対して、早めの段階で学生との面談をしていく必要があると思う。

3-22 について、小高氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

40%の学生をみているのは、多いように思う。個別的な事情、細かいケアをしていくためにも、この率はもっと下がっていった方が良いと思う。

6-11 について、小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

事務連絡以外で、学生との時間をもっと確保するためにも、教職員の体制は増やしていった方が良いと思う。

3-10 について、大島氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

学科担当制なので、病気のことだけでなく学費のことも考えなければいけない、大変な時代。成績不良者は当然でてくるので、相当サポートをしていると思う。

3-22 について、大島氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

労使で問題が起きていないのであれば、それで良いと思う。

6-11 について、大島氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

個別の面談・指導は、教員にとってもとても大変だと思う、それに取り組まなければいけない時代なのだと思うが、しっかりやっていると思う。

3-10 について、大西氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

学科担当制なので、学生 1 人 1 人とピンポイントで対応できていて良いと思う。昨年度より改善されている点が分からないので、この評価。

3-22 について、大西氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

手厚い対応だが、今後、たとえばハラスメント対応なども含めると、人数が足りないように思う。

6-11 について、大西氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

学科担当制なので、学生 1 人 1 人とピンポイントで対応できていて良いと思う。

3-10 について、砂田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

今の対応が良いと思う。

3-22 について、砂田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

平均的なパーセンテージが分からないので、この評価。

6-11 について、砂田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

先生の負担と、学生側が感じていることが、うまくいっているのであれば、良いと思う。

当日討議項目⑥ 新たな求人の開拓のための活動（V-3）

竹下氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

進路先が変わった場合、その方面の求人が充実すれば良いと思う。

ひの氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

事前にそれぞれの企業にどんな強みがあるかを、事前に学生が分かった上で、準備をしてから、説明会等を戦略的に行っていければ良いのではないかな。

高山氏の評価「3」。下記はそれに対する意見。

「新たな求人の開拓」という評価項目の表現が分かりにくいと思う。学生自身のリサーチができるようにしていくのが必要と思う。表方ではなく裏方をメインに募集している企業に来てもらうのも良いと思う。

小高氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

ホームページも充実していると思う。

大島氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

学生へのキャリア支援は、よくやっていると思う。

企業の厳選もしやすくなったのではないかな。

大西氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

企業がどのような人材を募集しているのか、事前に知ることができれば、もっと良いと思う。

砂田氏の評価「4」。下記はそれに対する意見。

卒業生が不安なく、社会にでて行ってほしいので、このような対応を続けてほしい。

次に、「日本芸術専門学校 2023 年度の取組」について、自己評価委員が説明をした。

広報箇所→西垣氏が説明した。

アドミ箇所→高橋氏が説明した。

設備箇所→鈴木氏が説明した。

次に本校の説明や今年度の学校関係者評価委員会の開催に対し、質問やご意見・感想を、学校関係者評価委員の皆様へ順番に伺った。

竹下氏

年々改善されていると思う。

ひの氏

この委員会は自分自身の勉強にもなった、入学希望者がもっと増えていくと良いと思う。

高山氏

意見が反映されているように思い、回を重ねるごとに、やりがいを感じるようになっていった。学生をたくさん育てていって、学校の知名度が上がっていけば良いと思う

小高氏

地道な作業の積み上げで、改善の階段が前進していているように思う。

大島氏

こんな評価委員会をやっている、ということを全面的に出している大学がある。これに匹敵するようになっていると思う。

大西氏

問題が年々解決しているように思う。参加されているメンバーに学生への愛情を感じる。

砂田氏

親目線からみても、こども目線で考えてくれる学校だと思う。

これからも良い学校にしてほしい。

次に司会から「今年度の学校関係者評価については、報告書と議事録を、5月に日本芸術専門学校のホームページにて公開させていただく旨、説明をした。

最後に武田氏から、委員の皆様へ「このメンバーでの会は、これで終了となるが、今後もなにかお気づきの点等あれば、なんなりと言っていたきたい。」とお礼を述べ、この会は16:30に終了した。

以上

日本芸術専門学校 2023年度の取組

1. 定員充足に向けた広報・募集活動の強化

- ・ 専門講師によるグループ校高等課程への出張授業
- ・ グループ校高等課程の専門学校見学・授業参加イベントを開催
- ・ AO 入試の内容を改定（台詞課題の実技試験を導入）
- ・ WEB 広告用に新規 LP（ランディングページ）を作成
- ・ デジタルパンフレットをホームページ上に掲載
- ・ 講師入学者紹介制度の導入
- ・ 提携寮（共立メンテナンス）奨学寮制度の強化、物件数の増加

2. コースごとの授業強化

- ・ ミュージカルヴォーカル授業のマンツーマン門下生制度採用
- ・ 各コースの演技科目授業の拡充
- ・ 東京音楽大学とのレッスン連携制度を採用

3. 職業実践専門課程認定に向けた取組

企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程であることの認定を目指す。

* 今後のスケジュール

- 2023 年 6 月～9 月 企業内実習・インターンシップの実施
- 2023 年 7 月～11 月 教育課程編成委員会の開催
- 2023 年度中 教職員研修の開催
- 2025 年度 職業実践専門課程の認定校申請

4. 3 年制の学則変更について

- ・ 2023 年度に学則変更を行い、2024 年度に募集活動。
→2025 年度 4 月に 3 年制の新入生入学予定。

5. 卒業生とのコミュニケーション強化

- ・ 卒業生に学校の公演を知ってもらえるよう、そして来校してもらえるよう、SNS のアプローチ強化、ホームページ上での卒業生連絡先収集等を積極的に行う。

6. ハラスメント防止について

授業開始前に講師ガイダンスを行い、ハラスメント防止に努めているが、今後、社労士も交え、ガイドラインを作成し、ホームページでの開示を行う。

7. 設備リニューアル・改修工事

- ・学生・職員が使用する複合機が経年劣化に伴いエラーが起きやすくなった為、入れ替えを行う。
- ・学生・職員が使用する Wi-Fi 機器のメーカー修理ができなくなりエラーが起きやすくなった為、入れ替えを行う。
- ・防火設備の非常照明に不具合箇所が見つかった為、安全上修繕を行う。
- ・雨漏り箇所が複数あり雨漏り診断を行う。(軽度の箇所は修繕済)